

「道具としての用途が、

網目のかたちを決める」

しの竹細工工人 千葉文夫さん

300年の伝統に現代感覚を盛り込んで

岩出山の第4代城主伊達村泰公が武士の手仕事として奨励したことが始まるしの竹細工。以来300年にわたる伝統を未来に受け継ぐべく、職人として、また指導者として活動しているのが千葉さんだ。

しの竹細工は、生地を密着した台所用具として愛されたものですが、用途に合わせて形や網目が決まるんです。竹の皮だけを使い、その表皮を内側にして編みこんでいくので使う人の手にやさしく、水切れいいく



「眼を入れる時には、息をとめて描くんです」

伝統工芸士・菅原和平さん

鳴子こけしの愛らしさに秘めた職人技

江戸時代、お椀やお盆を挽く木地師が子供のための玩具として作り与えたのが始まりとされているこけし。こけしの首の部分は胴体に空いた穴よりも大きくなります。口吻を開いたまま、「キュッキュ」と鳴る鳴子こけしの特徴はこの首入の技術であってのものです。鳴子伝統こけしの第一人者・菅原さんがそう言ひながら実演してみせてくれた材料となる「ミズキ」を秋口から伐採し、

1年間寝かせて乾燥。口吻を開いたまま、子供を見るような気持ちで大げら削り、描き、螺仕上げまで、全く気抜けない作業の連続だ。「買われた方に、子供を見るような気持ちで大げら削り、描き、螺仕上げまで、全く気抜けない作業の連続だ。『買われた方に、子供を見るような気持ちで大げら削り、描き、螺仕上げまで、全く気抜けない作業の連続だ。』

「いつも、静かな気持ちで。ただそれだけです」

鳴子漆器工人 後藤常夫さん



「用の美」を極めた鳴子漆器の真髄

今から約380年前、伊達宗公の命により始まつたと伝えられる鳴子漆器。鳴子ならではの産業として、今多くの職人が工房を構えている。中でも50以上の塗りの技術を持ち、数々の賞を受賞している後藤さんは、現代の鳴子の塗り師の代表的存在だ。鳴子漆器はお椀やお盆といった日常の生活用品だけでなく、自分の手にじむものを選んだから塗てゆく鳴子漆器の中に、工人としての魂を見る想いだ。

大崎が誇る 伝統工芸

しの竹細工、鳴子こけし、鳴子漆器

手作り体験施設

大崎市が誇る伝統的工芸品の数々。その工芸品を、手作り体験できる施設があります。職人の指導のもと、自分だけのオリジナル作品を作成しましょう。



MAP P22



MAP P15

伝統の技とロシア民芸品が
コラボレーション!?



鳴子縁起マトリョーシカ
ロシアを代表する民芸品のマトリョーシカ。その白樺の木地に、鳴子こけし工人が絵付けをした「鳴子縁起マトリョーシカ」が誕生。話題を集めている。

■販売店/
桜井こけし店(0229-83-3460)
阿崎斎の店(0229-83-3153)
老舗高麗(0229-83-3431)
■価格/9,500円(5個セット)



鳴子漆器

しっとりとした
手触りに幅広い用途

ケヤキやトチなどの木を用い、塗りは木目を生かした木地呂塗やふき漆仕上げ、また独特の墨流しの技法である竜文塗などがある。上品な光沢と堅固さが魅力。

鳴子伝統こけし

華やかさと可憐さに
満ちたデザイン

安定感のあるシルエット、首を回すと鳴る「キュッキュ」という音が特徴。胴に描かれる模様は「重ね菊」といい、横から見た菊の姿を重ねて描くものが代表的。



岩出山しの竹細工

美しい網目と
使いやすさで人気

柔軟で弾力がある「しの竹」の特徴を活かし、ざるや籠をはじめとしたさまざまな製品がある。なめらかな表皮を内側に編みこむことで、手なじみも抜群。

イベントにも注目!

第59回全国こけし祭り 第23回鳴子漆器展

東北地方のこけしが勢揃いする祭典。こけしの絵付け体験コーナーや鳴子漆器の展示即売もある。

■会場/鳴子小学校体育館、鳴子温泉街(お祭り広場)

■開催日/9月7日(土)、8日(日)
■時間/鳴子小学校体育館7日10:00~18:00、8日9:00~17:00
鳴子温泉街7日18:30~21:30
■問合せ先/0229-82-2026(全国こけし祭り実行委員会事務局)